

JIS A 5536

F★★★★

JAIA 4VOC基準適合



軟質塩ビシート・人工芝用接着剤 SG-1000

SG-1000は、軟質塩ビシート・人工芝などを施工するのに適しています。多少湿気のある床や開放廊下にも施工できるウレタン樹脂系の耐水形接着剤です。

用 途

- ・ホモニアスタイル
- ・長尺塩ビシート（裏面が基布付き）
- ・長尺塩ビシート（裏面が塩ビ材・防滑シート）
- ・コルクタイル（塩ビ裏打ち）
- ・人工芝・コンポジションタイル
- ・クッションフロア

標準使用量

300~400g/m² 2.5~3.3m²/kg

荷 姿

16kg（缶）
5kg（缶）

適用下地

- ・モルタル、コンクリート下地
- ・木質系下地

使用方法

下地の調整

- モルタル下地の場合
凹凸や不陸のない平滑な面とし、2週間（冬期は4週間）以上養生し、よく乾燥している事を確認します。
- 木質系下地の場合
タワミのない厚手の合板又はパーティクルボードを使用し、目違いや目地あきのない下地とします。

下地の調整及び清掃

1. モルタル下地に凸部がある場合は、サンダーがけやケレン処理により平滑にします。また、モルタル下地に凹部がある場合は下地補修材で補修します。
2. モルタル下地のもろい部分やレイタンスは、必ず取り除いてから、必要に応じて下地補修材で平滑にします。
3. 接着不良の原因となる、塗料・油・ホコリ・錆などを取り除きます。
4. 下地に浮き水がある場合は拭き取り、乾燥させます。

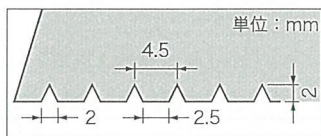
仕上げ材の確認

1. 接着施工する前に仕上げ材の柄違いを確認し、欠損や反りのある物は取り除きます。

接着剤の塗布

1. 接着剤は規定のクシ目ゴテを用いて、塗り溜りができないように均一に塗布します。

チェック：人工芝など裏面の凹凸が大きい材料を施工する場合は、クシ目の高いコテを使用して下さい。



仕上げ材の張り付け

1. 接着剤塗布後待ち時間を取ります。
2. 待ち時間を取った後、仕上げ材を張り始め、張付け可能時間内に張り終えます。

チェック：・張付け可能時間は、環境温度により異なります。
・仕上げ材に接着剤が着いた場合は、硬化する前に湿ったウェスで拭き取って下さい。

2. ガス膨れが生じた時は、千枚通しで丁寧にエア抜きを行います。

圧 着

1. 仕上げ材の張り付け後、ローラー・ハンドローラーなどでよく圧着します。更に1~2時間後に再圧着します。

養 生

1. 施工完了後、接着剤が硬化するまで（夏期24時間以上、冬期48時間以上）は重量物の運搬や歩行をしないように養生します。

性 状

外 観	灰白色 粘稠液
主 成 分	ウレタン樹脂系
待 ち 時 間	10~20分/23℃（屋内）
張 付 け 可 能 時 間	10~50分/23℃（屋内）

■取扱い上の注意事項■

- SG-1000を使用する前に以下の項目に注意して下さい。
- 開缶時に上澄み液がある場合は、缶内で上下によく混合してからご使用下さい。
 - 接着用途以外には、絶対に使用しないで下さい。
 - 品種の異なる接着剤と混合しないで下さい。
 - 5~35℃の環境で使用・保管して下さい。
 - 取扱い場所及び作業場所は換気頻度を多く行って下さい。（施工中は窓を開け、施工後も日中は10日間前後、常に窓を開ける）
 - 施工場所により周辺への溶剤臭気の拡散に注意し、必要に応じて周辺住民へ事前に連絡して下さい。
 - 引火性があります。使用時・取扱い場所は火気厳禁として下さい。
 - 保管・使用時は「消防法」や「労働安全衛生法」などに従って下さい。
 - 使用時は必要に応じて保護具を着用して下さい。
 - 開缶した接着剤は、できるだけ早く使い切して下さい。（数日で硬化します）
 - 直射日光の当たらない屋内に場所を定めて保管して下さい。
 - 子供の手の届かない所に保管して下さい。
 - 使用後や休憩前には、手洗いやウガイを行って下さい。
 - 使用中に身体に異常を感じた時は直ちに使用を止め、換気のよい場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
 - 目に入った時は直ちに清水で洗い流した後、医師の診断を受けて下さい。
 - 誤って飲み込んだ時は直ちに医師の診断を受けて下さい。
 - 皮フや衣服に付いた時は洗い落として下さい。
 - 誤飲防止と食品への混入を避けるために、保管場所は食品と区別して下さい。
 - 使用済み容器などは、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託して下さい。
 - 河川・湖沼・下水道などへ流入させないで下さい。
 - ご不明な点は当社営業担当にお問い合わせ頂くか、製品安全データシート（MSDS）をご参照下さい。